

令和5年度第1回宇部市地域包括支援センター運営協議会 議事録

日 時：令和5年7月20日（木）19時～20時20分

場 所：宇部市役所 3階 3-3、3-4 会議室

出席者：委員 11名、事務局 22名

- 1 宇部市健康福祉部長あいさつ
- 2 委員紹介
- 3 会長の選出

議題1「令和4年度宇部市地域包括支援センターの事業報告について」事務局から説明

〔委員〕：資料3「令和4年度地域包括支援センター事業計画書・報告書」内の自己評価は◎、○、△、×の4段階ですか。

【事務局】：はい、その通りです。

〔委員〕：「令和4年度地域包括支援センター事業計画書・報告書」が各地域包括支援センターから提出がありますが、地域包括支援センターの方は他の地域包括支援センターが、普段どのような活動をしているのか、その活動をどのように評価しているのかお互いが知る機会（会議など）はありますか。

【事務局】：事業計画や評価については、本会議で知ることができます。

〔委員〕：近い地域包括支援センター同士で、同じような事業を実施する場合に協力して実施することはありますか。

【事務局】：お互いのエリアが重なるところに出向いて、健康相談を共同開催したりなど、エリアが近いところでは連携や協力体制があります。

議題1について承認。

議題2「令和5年度宇部市地域包括支援センターの事業計画（案）について」事務局から説明

〔委員〕：今回、事業計画の中の独自事業は、各地域包括支援センターで地域性もかなり様々で高齢者数や社会資源が違うと思います。今回独自の事業を立てる上で、地域課題とか地域包括支援センターで把握されているものがあれば紹介していただきたい。

【事務局】：地域課題の一つとして、今後、認知症高齢者は増えると思われており、それに伴い、認知症が原因で地域を徘徊する人が増えてくると思います。その中で、認知症の徘徊の取り組みとして、認知症の方が徘徊していたら地域住民の方が発見して、気軽に声をかけて行方不明になるのを防いでいこうというものです。いかに住民の方が認知症の方にどのように声を掛けたらよいかなどの模擬訓練をしております。

〔委員〕：認知症の方が徘徊されて事故を起こして訴えられた時に、市などが代わりにお金を払う保険とかありますか。

【事務局】：宇部市では現在そのような保険はありません。

議題2について承認。

議題3「令和4年度「福祉なんでも相談窓口」事業実施状況及び令和5年度事業（案）について」事務局から説明

〔委員〕：実績の件数で、相談に来られた方の年齢層や相談内容で例えば生活困窮の場合、借金が何件、経済的困窮が何件など。あと年齢は高齢者が多く若者少ない場合、浸透していないなとわかると思うのですが、詳細が分かりますか。

【事務局】：年齢については、統計は取っていますが、宇部市では地域包括支援センターは高齢者の相談窓口ということで浸透しておりますので、どうしても高齢者からの相談が多くなってます。4か所の障害支援事業所や社会福祉協議会では、20代や40・50代からの相談を受けている状況です。

【事務局】：高齢者を発端としてその家族ということで相談が来ます。高齢者の子供からの相談といっても50～70代からの相談となっております。福祉なんでも相談員が参加する会議などで、小学生を中心に話題に上がることはありますが、個人と特定して話していないので、件数としては1、2件ぐらいで、はっきりとした件数は把握しておりません。

〔委員〕：先日、学生に福祉なんでも相談を知っているか聞いたところ、知らないという答えでした。やはり相談に行くのは高齢者が多いと思いますが、ヤングケアラーとかありますので若い人へももっとこういうものがあると伝わればいいなと思います。このあたり民生児童委員の方はどう思われていますか。

〔委員〕：地域の会議に出ることが多いので、子どものことも含めいろんな相談を受けることは多々あります。民生委員として、時々子どものいる世帯について話し合いがあるときはありますが、すべての民生委員で話し合うわけではないので、そこは難しいのではないのでしょうか。コロナ禍で地域の支え合い会議が開催できていない状況にありましたが、全体的なことを考えると、地域支援のことから地域支え合い会議がもっとできるような、いろんな形でできたらと思います。

議題3について、承認。